

日本型意思決定支援モデルのパイロット実践報告書

I. 意思決定支援従事者研修

①事業内容

- (1) 時期：2021年5月～6月
- (2) 場所：大分県
- (3) 参加者：6-8名（当法人スタッフ及び関係者）
- (4) 内容：日本意思決定支援ネットワークのスタッフによる研修を通して当法人のスタッフが意思決定支援実践において必要となるスキルを習得した。

②成功したこととその要因

意思決定支援の理解・スキル習得をすることが出来ました。福祉現場では本人の意思決定が大事だと言われる中で、実際にはどのようにして本人の意思を引き出すのか、それが支援者の意見に偏っていないかなど迷う場面が多くあります。今回の従事者研修では具体的な理解やスキルを学習できるものとなりました。

③失敗したこととその要因

業務の兼ね合いから、研修を受けられる職員が限られてしまった。

II. 意思決定支援実践

①事業内容

- (1) 時期：2021年9月～2022年7月
- (2) 場所：大分県
- (3) 参加者：数名（意思決定者、ファシリテーター、サポーター、トレーナー等）
- (4) 内容：日本意思決定支援ネットワークのスタッフによる指導受けつつ当法人のスタッフが当法人の利用者を対象に意思決定支援実践を行った。

②成功したこととその要因

今まで本人の枠組み（経験の中での）でしか考えてこなかったしたいことや希望に対して、その枠組みを外して考えてもらったことで本当にしてみたいことや希望を表出してもらうことが出来ました。結果として、2つの希望を叶えることが出来ました（お好み焼きパーティー、農作業体験）。

③失敗したこととその要因

新型コロナウイルス感染拡大（施設内クラスターなど）による事業中断があったため、期間が空いてしまった。

III. 意思決定支援実践のフォローアップ及び評価

①事業内容

- (1) 時期：2023年1月～3月
- (2) 場所：大分県
- (3) 参加者：数名（意思決定者、ファシリテーター、サポーター、トレーナー、評価者等）

(4) 内容：日本意思決定支援ネットワークのスタッフに依頼し、当法人のスタッフが当法人の利用者を対象に行った意思決定支援実践についてのフォローアップ及び評価を受けた。

②成功したこととその要因

フォローアップ、評価を行う時間を設けることで、実践の振り返りが出来ました。一人では気づけない良かった点・悪かった点の指摘を受け、自らの成長に繋がりました。

③失敗したこととその要因

なし

IV. 目標の達成状況

1.意思決定者に対する評価

・意思決定者の主観的 QOL について：①リクルートミーティングを終えて意思決定者を選出した時点、②合意書完成時点、③取り組み終結時点の合計 3 回、量的調査を実施し、得られたデータを分析中である。

・意思決定者の意思決定に対する意識について：ミーティングの中で①必要な情報を得ることができたか、②選択肢が示されたか、③自分の思いを聞いてもらうことができたか、④自分の決定を尊重してもらえたか、の 4 項目について、インタビューを行った。①②に関する意思決定者の認識は薄かったが、③④については「できた」「よかった」という語りがみられた。

2.意思決定支援者に対する評価

ファシリテーター及びサポーターに対して、「ミーティングにおいて、意思決定者に対して①必要だと思われる情報を提供することができたか、②選択肢を提示することができたか、③本人の思いに寄り添うことができたか、④本人の決定を尊重することができたか」の 4 項目からなる半構造化インタビューを実施した。

【ファシリテーター】

①②③④ともできていた。ファシリテーター養成研修で学んだ目的のある会話のスキルに基づいて実践を重ね、心からの希望を引き出すことができていた。意思決定者が自分の思いを表出でき、それを叶えられたことで、ファシリテーター自身の自信にもつながったと述べている。

【サポーター】

今回、意思決定者の希望によって障害をもつ当事者がサポーターに選出された。取り組みの終了後、サポーター自身からも、自分の望む生活（こんなふうに暮らしたい、意思決定支援もちょっとやってみたい）について語るという場面が見られた。

V. 事業実施によって得られた成果

意思決定支援者（ファシリテーター）は、これまでの相談支援業務の経験に重ねて、本事業を通して習得した実践的意思決定支援ファシリテーションのスキルを発揮し、DM は希望を安心して表出することができていた。今回の実践を契機に、当法人が所在する地域での意思決定支援の理解を促進し、実践へと繋がられることが期待できる。

VI. 活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

【新たな課題】

①本人主体であるという意識をどう高めるか

意思決定者が自分の希望を叶えるために、自ら関心を持って必要な情報を集めたり、行動したりする意欲を高めること。

②チーム形成

これまでの人間関係が限られている中で、本人を中心としたチームをどう豊かに創り上げていくか。地域の社会資源とつながっていくこと。本人が地域の中で自分はやっていけそうだと自信をもてるように具体的にどうサポートするか。

【対応案】

①について：リクルートミーティング（複数の候補者から1人の意思決定者を決めること）の段階で、まずは本人の準備性を確認する（本当に叶えたい希望がある段階かの見きわめ）。本人が主体となって行動したことで希望の実現につながるという成功体験の蓄積を図る。

②について：意思決定者の希望に合わせて、地域の人や社会資源を巻き込んでいくことを継続する。